

令和 2 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	教員住宅管理運営事業	会計名称	一般会計		担当課	学校教育課	
		予算科目	10 款 1 項 3 目	事業番号	4170	所属長名	佐々木正孝
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	島川仁	
法令根拠等	伊予市教職員住宅条例・伊予市教職員住宅管理規則				実施期間	【開始】	令和/平成 17 年度
総合計画での位置付け	生涯教育都市の創造 学校教育環境の整備・充実					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	教員住宅を利用していただくことにより、地域を理解し、学校・家庭・地域が連携して学校運営に取り組むことができる。						
事業の対象	伊予市小・中学校教職員			事業の目的	教育関係職員の福利厚生の一環として設置された教員住宅に関する諸業務を適切に行う。		
事業の内容 (整備内容)	由並・下灘・中山教職員住宅の維持管理や入・退居手続き等を適切に行う。			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	2年度予定	9月末の実績	2年度実績
直接事業費	147	529	2,145	0	0	2,419	入居世帯数	人	3	2	1	1
財源内訳												
国庫支出金	0	0	0	0	0	0						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	147	480	0	0	0	163						
一般財源	0	49	2,145	0	0	2,256						
職員の人工(にんく)数	0.03	0.05				0.05						
1人工当たりの人件費単価	7,992	7,812				7,812						
※ 直接事業費+人件費	387	920				2,810						
主な実施主体	直接実施		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)									
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年間の合計		
					600	600	600	600	600	3,000		
成果指標	指標	入居世帯数/入居可能戸数(11戸) × 100			単位	区分年度	前年度	2年度	3年度	目標	毎年度	
					%	目標	70	72.5	75	75		
	指標設定の考え方	全戸入居を目標として設定する。			⇒	実績	27.3	9.1				
	指標で表せない効果	教育関係職員から希望があった場合に入居できる状態を維持する必要がある。										

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		AL Tが継続して住んでいた中山教員住宅の1部屋について、新たに来るAL Tが気持ちよく入居できるように掃除や整理整頓を行う予定である。									
事務事業の評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	B	事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題	年度途中に、持主の意向により双海の教職員住宅の取壊を行うことになり、解体の予算計上等の突発的な業務が増加したが、適切に実行することができた。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	3						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	2						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多々である。	3						
	効率性	手段の最適性	活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	C					
			投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	2							
		コスト効率	5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	2							
	市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	2								
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	3		合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D		B	事業の方向性 所屬長の課題認識	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 教職員やALTの福利厚生、学校の円滑な運営に必要な事業であり、当面は継続する必要があると考えるため。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3						
市の関与の妥当性			5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3							
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D						
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	2							
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多々である。	3							
効率性	手段の最適性	活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	B						
		投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	2								
	コスト効率	5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	2								
市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	3									

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 【低評価事業】 使用していない教職員住宅の有効活用の検討。その際には例規の改正が必要となる。	
			<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。			

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持管理において、教職員が住みたいと思うような物件にしないと活用が難しいだろう。</li> <li>・中山は山間部のため、積雪の場合には通勤困難になることも。本施設を短期利用できるような仕組みがあるとよい。</li> <li>・教員住宅が今の時代に本当に要るのか。建てられた当初は必要性があったが、今となってはニーズがなくなっている。</li> <li>・教職員住宅が福利厚生の一環で設置されていること自体が、前時代的な考え方である。時代に合わせた見直しを。</li> <li>・資料にあるのは外観の写真だけであり、内部の状況も分かれば、より活発な意見交換ができたのではないか。</li> <li>・人口減少時代にあって、地域の空き家率が上がっている。空き家バンクの仕組みもあるため、こちらの利活用を優先して、事業の見直しを図るとよい。施設を維持し続けるだけで、時間もお金も実質的なマイナスが増えてしまう。</li> </ul>
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性	コメント欄
	<input type="checkbox"/> さらに重点化する。 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。 <input type="checkbox"/> 見直しの上、継続する。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。 <input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	<input type="checkbox"/> 空き家となっている建物の有効活用を検討すること。